



〈西岐波③ 小学校歌〉

江戸時代の西岐波村はあちろこちろに寺子屋があり、1874年に4軒を統合した床波小が床波小路の村上耕作宅に設けられた。何度か場所を移し、89年に現市民センターが建つ場所に錦波尋常小を改築移転。現在の床波3丁目に移ったのは1922年だった。その頃は西岐波尋常高等小の名称だったが、47年に「西岐波小」に改称。校歌が制定された54年は、床波小の開校からちょうど80年後だった。

**校歌**

一 田畑も丘も さみどりの  
もえたつ力 湧くのぞみ  
正しく強く 進み行く  
ぼくのわたしの西岐波校

二 明るい窓に 風渡り  
輝くまなこ すます耳  
思いは開け わぎは伸び  
いつも楽しい 西岐波校

三 波は静かに 砂白く  
続いて絶えぬ 足のあと  
うけつぎ伝え 色そえて  
心離れぬ 西岐波小学校



西岐波小学校

地元風景と児童へのメッセージ込める

作曲は県音楽教育連盟の推進力となった一人、原田彦四郎さん。作詞は、旧豊浦町出身で、小学校教員の傍ら作詞に興じていた網田弥一さん。豊か

1990年に編曲、3部合唱へ変更

な自然や前向きに勉学に励む児童、いつまでも同小出身であることを誇りに思える力強いメッセージが込められている。また、床波には住吉神社に祈ったことで荒ぶる波が床のように静まったという伝説があり、「波は静かに砂白く」は地名の由来を思い起こさせる一節となっている。

1〜3番の1、2段では地元の風景と子どもたちの成長を重ね合わせている。1番の「田畑も丘もさみどりのもえたつ力湧くのぞみ」では、「田畑

から5年生は低、高音パートの練習を始める。現在、全校児童で歌う際は、1番で斉唱し、2番で低音パート、3番で高音パートと加わっていく。最後はそろって「西岐波小学校」と歌い上げる。校歌を3部合唱で歌えることは西岐波っ子の自慢の一つだ。

2番冒頭に「明るい窓に風渡り」とあるように、6年生の教室の窓からは海が見渡せる。「卒業後も校歌を口ずさむときがあれば、あの頃の風景に思いをはせてほしい」。そんな願いが、校歌を伝える教職員たちに引き継がれている。